

岩橋千塚古墳群寺内地区

— 和歌山平野農地防災事業新溝支線水路工事等に伴う発掘調査報告書 —

2024年3月

公益財団法人 和歌山県文化財センター

岩橋千塚古墳群寺内地区

— 和歌山平野農地防災事業新溝支線水路工事等に伴う発掘調査報告書 —

2024年3月

公益財団法人 和歌山県文化財センター



1 調査区1完掘（西から）



2 調査区2完掘（北東から）

序

岩橋千塚古墳群寺内地区は、和歌山市の寺内・井辺・森小手穂・吉礼・西に位置する古墳群で、岩橋千塚古墳群の南西の一角にあたります。

岩橋千塚古墳群は4～7世紀にかけて数多くの古墳が築られました。また、古墳数が全国でも有数の古墳群であり、その一部は国指定特別史跡に指定されています。

古墳群南西部には和田遺跡や神前遺跡、井辺遺跡などの集落跡や水田跡が広がり、西側には古墳時代末から中世初頭に開削された宮井新溝を前身に持つ農業用水が南流しています。この宮井新溝の開削主体は、日前宮とも言われており、この農業用水開発の背景には、中世に、岩橋千塚古墳群寺内地区の東側の土地開発に関係していた根来寺勢力への対抗措置があったとも言われており、和歌山県北部の中世史の一端が垣間見えるものです。

また、調査地の北東部は平成27・28年度に調査が行われた相方遺跡に隣接しており、弥生時代から中世にかけての堅穴建物や掘立柱建物などの遺構や土師器や須恵器をはじめとした様々な遺物が確認されています。

このたび、和歌山平野農地防災事業新溝支線水路工事等に伴い、発掘調査を実施しました。調査の結果、古墳時代後期から古代にかけての土坑や小穴、溝、古代から中世にかけて埋没した自然地形の落込み、中世以降に埋没したと考えられる溝を発見し、調査地周辺の土地利用の変遷などが明らかとなりました。これらの成果をまとめて、発掘調査報告書として刊行いたします。本書が県民の皆様のみならず、広く一般の活用に資することができれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本書の作成にあたり、ご指導・ご協力を賜りました関係各位、地元の皆様に対し厚くお礼申し上げます。

令和6年3月8日

公益財団法人 和歌山県文化財センター

理事長 櫻井敏雄

例 言

1. 本書は和歌山県和歌山市森小手穂に所在する岩橋千塚古墳群寺内地区の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、和歌山平野農地防災事業新溝支線水路工事等に伴うもので、令和5年度に発掘調査及び出土遺物等整理業務を実施した。
3. 発掘調査及び出土遺物等整理業務は、農林水産省近畿農政局和歌山平野農地防災事業所の委託を受け和歌山県教育委員会指導のもとに、公益財団法人和歌山県文化財センターが実施した。
4. 発掘調査・出土遺物等整理業務の調査組織は下記の通りである。

| | |
|----------------|-------|
| 事務局長（管理課長兼務） | 平林 照浩 |
| 埋蔵文化財課長 | 高橋 智也 |
| 発掘調査・出土遺物等整理業務 | 濱崎 範子 |
5. 本書の編集・執筆、遺構及び遺物写真の撮影は濱崎が行った。
6. 発掘調査及び出土遺物整理に際し、下記の関係諸機関よりご協力・ご教示を得た。記して感謝の意を表す。（五十音順）

和歌山県海草振興局建設部・和歌山市
6. 本事業の遂行にあたり、地元自治会、地域住民の方々から多大なご協力を頂いた。ここにあらためて感謝の意を表す。
7. 出土遺物は和歌山県教育委員会が保管し、発掘調査及び出土遺物等整理業務において作成した実測図やデジタルデータ、台帳及び写真などの記録資料は公益財団法人和歌山県文化財センターが保管している。

凡 例

1. 遺構等の土層について記載した土色及び出土遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本彩色研究所監修『新版標準土色帖』（2016年版）に基づいて記録した。
2. 発掘調査及び出土遺物等整理事業は、『財団法人和歌山県文化財センター発掘調査マニュアル（基礎編）』（2006.4）に準拠して行った。
3. 調査ならびに本書で使用した座標値は、平面直角座標系（平成14年国土交通省告示第9号）第VI系のもので、値はm単位で使用している。図面に使用している北方位は座標北で、標高は東京湾標準潮位（TP⁺）の数値である。
4. 調査区名・遺構番号は、基本的に発掘調査時のものを踏襲し、遺構番号は調査区ごとに1からの通し番号である。
5. 遺物図版の縮尺は、原則として1/4とした。また、遺物写真の縮尺については特に統一していない。
6. 調査で使用した調査コードは、「調査年度下2桁－市町村コード・遺跡番号」で以下の通りである。出土遺物・記録類はこの調査コードを用い、管理している。

23-01・187（2023年度-和歌山市・岩橋千塚古墳群寺内地区）

本文目次

| | | | |
|---------------|---|----------------|----|
| 第1章 遺跡の位置と環境 | 1 | 第4章 調査方法 | 8 |
| 第1節 地理的環境 | 1 | 第1節 地区割 | 8 |
| 第2節 歴史的環境 | 1 | 第2節 調査現場の記録作業等 | 9 |
| 第2章 調査の経緯と経過 | 5 | 第5章 調査の成果 | 10 |
| 第1節 調査の経緯 | 5 | 第1節 調査概要 | 10 |
| 第2節 発掘調査と普及活動 | 5 | 第2節 基本層序 | 10 |
| 第3節 出土遺物等整理業務 | 6 | 第3節 遺構と遺物 | 10 |
| 第3章 既往の調査成果 | 7 | 第6章 まとめ | 20 |

挿図目次

| | | | |
|---------------------|-------|-------------------|----|
| 図1 岩橋千塚古墳群寺内地区周辺の遺跡 | 3 | 図8 2区南壁土層断面図 | 13 |
| 図2 調査区及び既往調査区位置図 | 7 | 図9 土坑・小穴実測図 | 15 |
| 図3 地区割（大区画） | 8 | 図10 2自然地形の落込み実測図 | 17 |
| 図4 地区割（中区画） | 9 | 図11 1溝土層断面図 | 18 |
| 図5 地区割（小区画） | 9 | 図12 出土遺物実測図 | 19 |
| 図6 基本層序（2区南壁） | 10 | 図13 調査地周辺の土地利用変遷案 | 20 |
| 図7 遺構配置図 | 11・12 | | |

表目次

| | | | |
|-----------------------|----|------------|----|
| 表1 岩橋千塚古墳群寺内地区周辺の遺跡一覧 | 4 | 表3 出土遺物観察表 | 21 |
| 表2 遺構一覧 | 14 | | |

写真図版目次

巻頭カラー

調査区1完掘（西から）

調査区2完掘（北東から）

写真図版1

1 調査地遠景（北東から）

2 調査前風景（西から）

写真図版2

1 30土坑南壁土層断面（北から）

2 31土坑南東壁土層断面（北西から）

3 34土坑東壁土層断面（西から）

写真図版3

1 37小穴北東壁上層断面（南西から）

2 46・48土坑南壁土層断面1（北から）

3 48土坑北壁上層断面2（南から）

写真図版4

1 46・49土坑東壁土層断面（西から）

2 48土坑西壁上層断面（東から）

3 52・53土坑北壁土層断面（南から）

写真図版5

1 2自然地形の落込みベルト1土層断面
（西から）

2 2自然地形の落込みベルト2土層断面
（西から）

3 2自然地形の落込みベルト3土層断面
（西から）

写真図版6

1 上坑・小穴完掘状況（北から）

2 2自然地形の落込み・土坑・小穴完掘状況
（北東から）

写真図版7

1 1溝サブトレンチ1土層断面（東から）

2 1溝サブトレンチ2土層断面（西から）

3 1溝サブトレンチ3土層断面（西から）

写真図版8

出土遺物1

写真図版9

出土遺物2

第1章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

岩橋千塚古墳群寺内地区のある和歌山市は和歌山県の北西部に位置する。市城の北側を大断層である中央構造線が東西に横断し、断層の北側は内帯、南側は外帯に分けられる。紀の川はこの中央構造線に沿って西流し、市西部で紀伊水道に注いでいる。紀の川の北側には大阪府との府県境界となる和泉山脈が東西に延びており、南側には三波川変成帯が広がっているが長年の浸食により和歌山平野には大小の山塊が点在している。岩橋千塚古墳群もそれらの山塊及びその周囲に展開している。

調査地の現況は道路及び農業用水路、果樹園である。地元での聞き取り及び米車撮影の航空写真などから戦前は調査区南の丘陵裾部まで水田が広がっていたようであるが、次第に丘陵斜面地と裾部の一部は柿や柑橘類の果樹園となったようである。

第2節 歴史的環境 (図1)

岩橋千塚古墳群寺内地区が所在する岩橋山塊周辺は、縄文時代より多くの遺跡の展開が見られる。以下、周辺の代表的な遺跡について記述する。

縄文時代 岩橋山塊周辺には、縄文時代の前期から晩期にかけて形成された遺跡が認められる。昭和6年に国史跡に指定された鳴神貝塚のほか、福宜貝塚(176)、吉礼貝塚(298)、岡崎縄文遺跡(309)がそれにあたる。鳴神貝塚では、縄文時代中期から晩期にかけての遺物が出土しており、抜歯をされた女性を埋葬した土壌墓が検出されている。福宜貝塚では前期から後期にかけての遺物が出土しているほか、多くの骨角器がみついている。これらの貝塚からはいずれもヤマトシジミ、カキ、ハイガイ、ハマグリなどの汽水産、海産の貝類が出土している。

弥生時代 弥生時代前期から中期にかけて紀の川南岸の平野部で多くの遺跡が展開するようになる。JR和歌山駅東側に広がる太田・黒田遺跡は大規模な集落跡で前期から中期にかけての竪穴建物跡や前期末とみられる大規模な溝が開削されている。集落東部では銅鐸が出土している。この他前期から中期の遺跡として秋月遺跡、和田遺跡(301)、神前遺跡がある。和田遺跡では県内で最も古い段階と考えられる前期中葉の弥生土器の一括資料が土坑から出土している。神前遺跡では弥生時代前期から庄内期にかけての溝が多数検出されている。弥生時代中期後半から後期前半にかけて平野部の遺跡が減少する一方で丘陵部では滝ヶ峯遺跡のような高地性集落とみられる遺跡が出現する。和田川を挟んで対岸の丘陵上に位置する菖蒲谷遺跡(254)では弥生時代中期の方形周溝墓が5基検出されている。また隣接する千石山遺跡(256)では台状墓4基が検出されている。弥生時代後期後半になると前述の高地性集落は継続せず、再び平野部に遺跡が展開する。太田・黒田遺跡、井辺遺跡(308)、津秦遺跡がそれらにあたり、古墳時代前期まで継続する。また近年の調査成果により、明確な集落の痕跡は確認できないものの、和田岩坪遺跡では弥生時代後期後半から古墳時代前期の自然流路を検出し、多数の土器、木器のほか種実を中心とする植物遺存体が出土した。このことから周囲に当該時期の集落が想定できる。

古墳時代 岩橋千塚古墳群(182~187)は全国的にも有数の群集墳として知られる。岩橋山塊とその周辺の古墳群も含めると4世紀末から7世紀にかけて900基を超える前方後円墳・円墳などが築かれている。後期の主要な古墳には結晶片岩を積み上げ、石梁や石柵を持つ「岩橋型」

と通称される横穴式石室が構築されている。岩橋千塚古墳群の大日山地区に所在する大日山 35 号墳では多種多様な埴輪が出土しているほか、秋月遺跡、鳴神 V 遺跡では平野部に築造された円墳・方墳が古墳時代初頭から後期にかけて確認されている。

古代 古代においては紀伊一宮の日前・国懸神社が造営され、日前宮南の平坦部には方位が N-5° ~ 6.5° - W の条里地割が確認できる。太田・黒田遺跡では井戸から和同開珎や万年通宝が、鳴滝 V 遺跡からは陶硯、緑釉陶器、土馬などが出土している。

中世以降 神前遺跡では鎌倉時代の溝や耕作痕が確認されている。また、鎌倉時代に整備された宮井用水の一つである「中溝」水路の肩とみられる遺構が検出されており、これに伴う屋敷地の区画溝も検出されている。

太田・黒田遺跡は羽柴秀吉による紀州征伐に伴う水攻めで知られた太田城の推定地があるが、既往調査において幅 10m、深さ 3m の 16 世紀代とみられる堀状遺構や、土塁などが確認されており、いずれも太田城及び水攻めに伴う遺構と見られる。

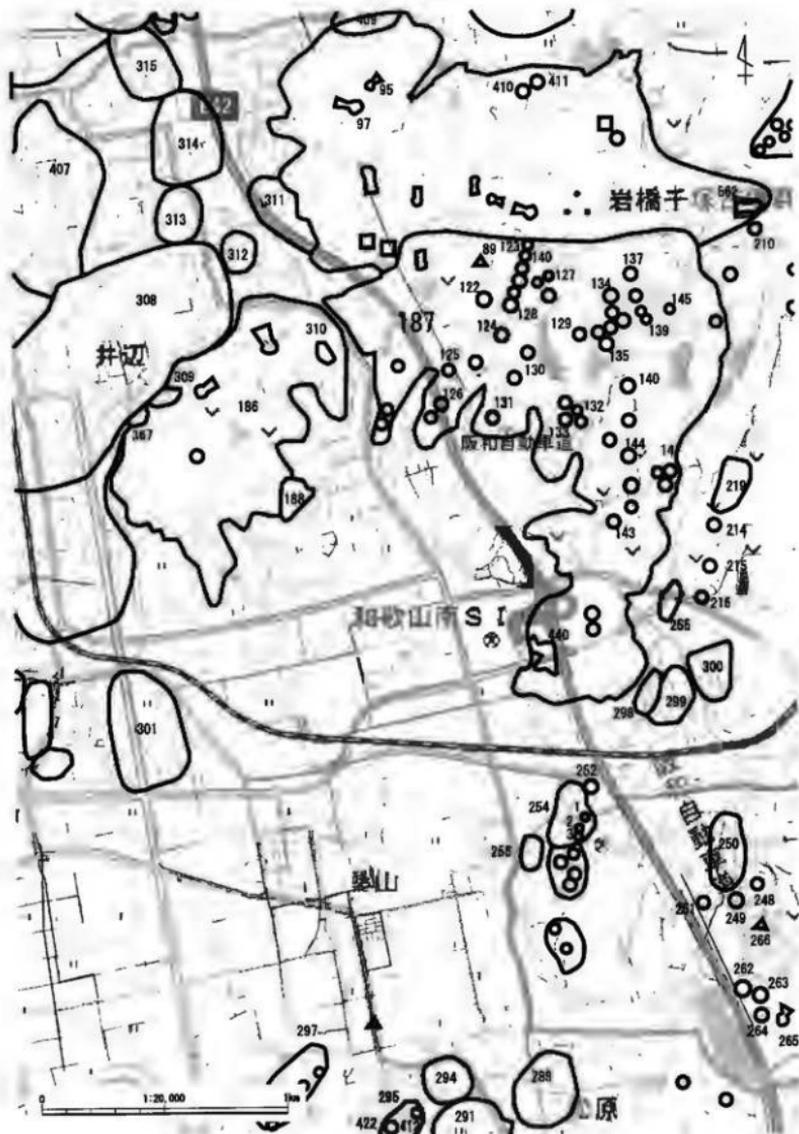


図1 岩橋千塚古墳群寺内地区周辺の遺跡
(和歌山県埋蔵文化財包蔵地所在地図)

第2章 調査の経緯と経過

第1節 調査の経緯

調査は近畿農政局和歌山平野農地防災事業所（以下、和歌山平野農地防災事業所という。）により新溝支線水路工事が計画され、事業予定地の一部が周知の埋蔵文化財包蔵地である「岩橋千塚古墳群寺内地区」内に位置していたことに起因する。令和3年8月17日付け3近和第407号で和歌山平野農地防災事業所長より、和歌山県教育委員会（以下、県教育委員会という。）へ文化財保護法第94条第1項の規定に基づく埋蔵文化財発掘の通知が行われ、これに対し令和3年8月26日付け文第04010016号の(35)で確認調査を必要とする旨の通知を県教育委員会が和歌山平野農地防災事業所長に行った。その後、令和3年11月25日付け3近和第564号及び令和4年5月23日付け4近和第5184号で和歌山平野農地防災事業所長より県教育委員会へ確認調査の実施について依頼があり、県教育委員会は令和3年12月1日付け文第04260002号の14及び令和4年5月27日付け文第05270052号でこれを受諾し、和歌山平野農地防災事業（新溝支線水路工事）に伴う岩橋千塚古墳群寺内地区確認調査として実施した。現地調査は、令和4年3月23日・24日、令和4年7月14日・15日の計4日間で、合計24.0㎡の範囲で行われた。

その結果、県教育委員会により事業予定地については記録保存目的の本発掘調査が必要と判断されたため、和歌山平野農地防災事業所長より県教育委員会へ発掘調査の実施について依頼があった。これを受けて公益財団法人和歌山県文化財センター（以下、当センターという。）に県教育委員会より令和5年2月15日付け文第02150004号で実施計画書提出の依頼があり、令和5年3月13日付け和文セ第342号でこれを提出した。

その後、令和5年3月14日付け文第042150004号の2で当センターへ県教育委員会より和歌山平野農地防災事業所長と委託契約を締結するよう依頼があり、令和5年4月13日付けで和歌山平野農地防災事業所長と当センターとで「令和5年度和歌山平野農地防災事業新溝支線水路工事等に伴う埋蔵文化財発掘調査業務」の契約を締結した。契約期間は令和6年3月31日までである。

第2節 発掘調査と普及活動

1. 発掘調査

契約後、当センターは令和5年5月8日付け和文セ第647号で文化財保護法第92条第1項の規定に基づく発掘調査届出書を和歌山県地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第55条第1項及び県教育委員会の事務処理の特例に関する条例第2条に基づき、和歌山市を經由して、県教育委員会に提出した。

発掘調査は、令和5年7月10日から一時休止期間を挟んで同年11月8日までの期間で実施した。なお、発掘調査に伴う工事は「和歌山平野農地防災事業新溝支線水路工事等に伴う埋蔵文化財発掘調査業務等に伴う岩橋千塚古墳群寺内地区発掘調査工事」として、ヤスキ水道工業株式会社に再委託した。調査地は平成27年度に実施した「和歌山橋本線道路改良工事及び近畿自動車道松原那智筋補線（仮称）和歌山南スマートインターチェンジ建設工事」（寺内古墳群、相方遺跡第1次発掘調査）の調査区西端に接する部分であり、現状は道路、農業用水路及び果樹園である。契約当初の調査面積は461.1㎡であったが、既設カルバートボックスに隣接する部分はカル

パートボックス埋設時に遺構面以下まで攪乱されていたため、県教育委員会と協議の上、今回の対象範囲から除くこととなり、最終的に428.2㎡の調査を行った。

調査は調査地北側の道路部分を調査区1、南側の既設水路及び果樹園部分を調査区2として各區ごとに調査を実施した。県教育委員会による確認調査の成果を参考に、現在の道路等造成土や果樹園の表土及び旧耕作土を機械掘削の対象とし、遺構面から0.1mの保護層及び遺物包含層以下を人力掘削とした。調査対象地で確認した遺構面1面で、部分的に2面確認した。記録保存としての平面実測図・断面実測図を作成した。調査区1では調査地区隣接地を排土置き場として使用し、調査区2では掘削した土砂は後続する新溝支線水路工事の工程上、埋め戻しを行わず処分した。

2. 普及活動

また調査期間中の令和5年11月6日(月)には、調査成果を県民に見ていただくため、現地公開を実施した。雨天ではあったが近隣住民を中心に6名に参加していただいた。



写真1 遺構掘削



写真2 現地公開

第3節 出土遺物等整理業務

1. 出土遺物応急整理

出土遺物については、その時期決定を行い、調査方法の判断資料とするため当センター事務局整理棟において応急的な洗浄作業を実施し、出土遺物台帳の作成作業を実施した。また、現場で撮影した中判デジタルカメラ及び35mmフルサイズデジタルカメラのRAWデータはリネーム後、適切なデジタル現像を行い、TIFFデータに書き出して保管した。現地調査の遺構等の記録図面は、地区別・図面種別などの区分を行い図面ファイルに収め、応急的な整理を実施した。

2. 出土遺物等整理業務

報告書作成に伴う出土遺物整理業務は発掘調査で出土した遺物全点を対象に行った。遺物の登録・注記・接合・補強・実測等の一連の作業を行うとともに遺構実測図の調整を行い、遺物実測図と共にデジタルトレース作業を実施し、これらを組版して図面原稿を作成した。現場で撮影した遺構写真等について整理を行い、報告書掲載の遺物写真を撮影した。遺物写真と遺構写真の組版を行い、写真図版を作成した。

また、遺物観察表を作成するとともに一連の作業を踏まえて原稿執筆を行った。

業務は令和5年8月から実施し、一時調査区2の発掘調査等により出土遺物整理業務の休止期間を設けたが、令和6年3月に本書を刊行するに至った。

第3章 既往の調査成果(図2)

岩橋千塚古墳群寺内地区に所在する古墳については、「寺内古墳群」として昭和42年に関西大学考古学研究室によって実施された寺内59号墳・60号墳の発掘調査をはじめとして県教育委員会(22号墳など)、和歌山市教育委員会(57号墳など)による発掘調査が行われている。

今調査地に直接関連する既往調査として、平成27・28年度にかけて「和歌山橋本線道路改良工事及び近畿自動車道松原那智勝浦線(仮称)和歌山南スマートインターチェンジ建設事業」及び「海草振興局建設部調査移転外事業及び近畿自動車道松原那智勝浦線(仮称)和歌山南スマートインターチェンジ建設事業」に伴って岩橋千塚古墳群寺内地区(187)及び相方遺跡(440)の発掘調査が実施されている。調査地は丘陵部南西裾部に位置する4,022㎡であり、開析谷を流れる自然流路と、微高地には弥生時代の竪穴建物数棟のほか、古墳時代の竪穴建物、古代から中世の掘立柱建物、溜拵、平安時代の水路跡、鎌倉時代の堀立柱建物、土坑、溝など各種の遺構と多量の遺物が確認されている。また、平成29年度に県教育委員会が実施した試掘確認調査においても、従前の調査で確認された自然流路の延長部分と、弥生時代から古墳時代の竪穴建物をはじめとする各種の遺構が検出されている。このため岩橋千塚古墳群寺内地区の南西部は丘陵上に位置する古墳群と丘陵裾部に展開する弥生時代から中世までの集落跡である相方遺跡とに分けて考えることができる。

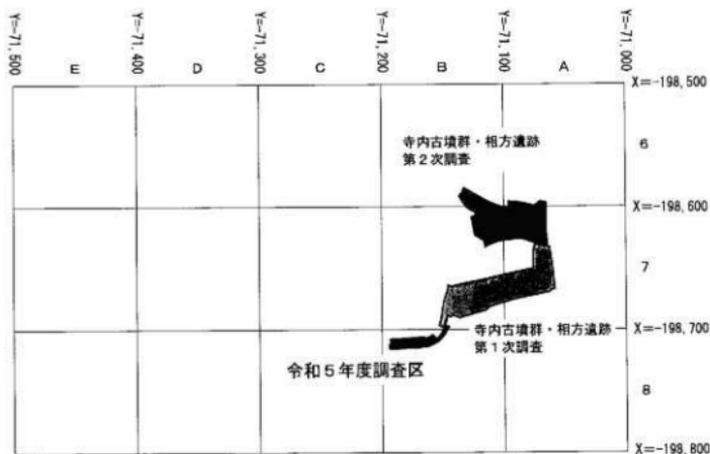


図2 調査区及び既往調査区位置図

第4章 調査方法

第1節 地区割 (図3～5)

調査区の地区割は、平成27年度に実施した「和歌山橋本線道路改良工事及び近畿自動車道松原那智勝浦線（仮称）和歌山南スマートインターチェンジ建設工事」（寺内古墳群、相方遺跡第1次発掘調査）及び平成28年度に実施した「海草振興局建設部調査移転外事業及び近畿自動車道松原那智勝浦線（仮称）和歌山南スマートインターチェンジ建設工事」（寺内古墳群、相方遺跡第2次発掘調査）で設定した平面直角座標系（平成14年度国土交通省告示第9号）第VI系を使用し遺跡を網羅する北東に基点（ $X = -195,000\text{m}$ 、 $Y = -70,000\text{m}$ ）を設け、その点から南西にむかって大区画・中区画・小区画を設けて区割を行った。大区画は西方向、南方向へそれぞれ1km四方の区画を1単位とし、基点から西方向へローマ数字Ⅰ～Ⅲ、南方向へアラビア数字で1～4と表記した。これにより今回の調査区は大区画Ⅱ4区に位置する。中区画は大区画Ⅱ4区画の北東隅をA地点と定めて、西方向へ100mごとにB、C、D…、南方向に2、3、4…という軸を設定した1辺100m四方の区画で、北東隅の地区名を用いてA1、C3などと呼称する。中区画の北東隅をa1地点として、そこから4mずつ西方向へb～y、南方向へ2～25とそれぞれの方向に25分割し、一辺4mの正方形区画を小区画とする。小区画は北東隅の地区名からa1区～y25区と呼称する。地区名は、中区画-小区画（A1-a1区など）で表す。今回の調査区は、中区画でB7・B8の範囲内に位置する。

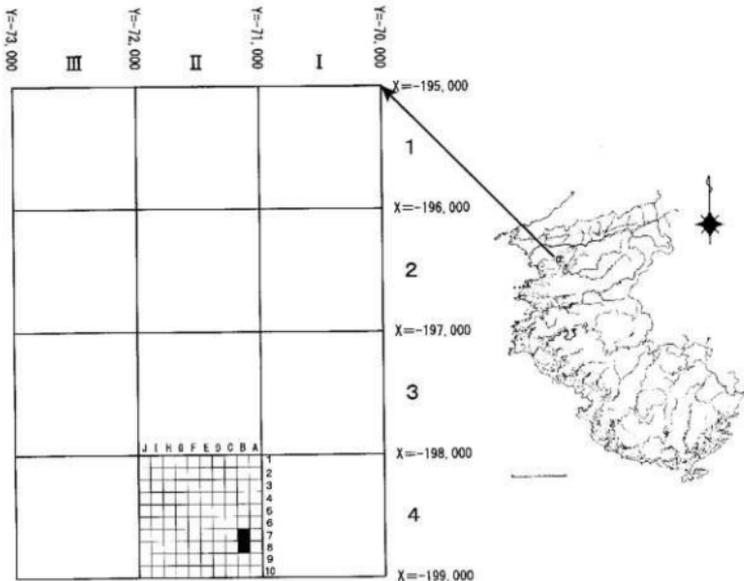


図3 地区割 (大区画)

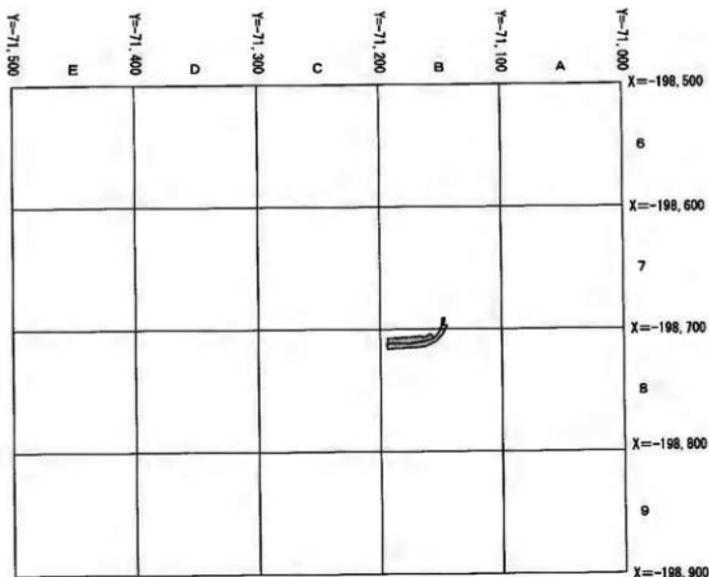


図4 地区割(中区画)

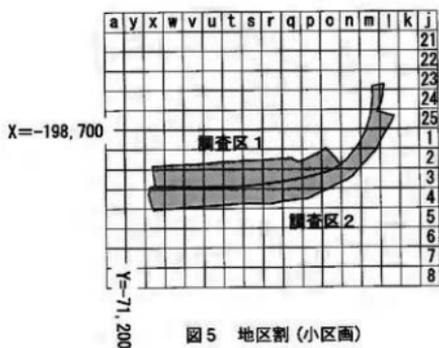


図5 地区割(小区画)

発掘調査は、造成土及び遺物包含層より上を建設重機による機械掘削で、遺構面保護層 0.1mもしくは遺物包含層以下を人力掘削で進めた。また、状況に応じ、下層確認トレンチを設定し、遺構面以下の土層堆積状況を確認した。

第2節 調査現場の記録作業等

岩橋千塚古墳群寺内地区の調査に伴い、下記に示す記録作業等を行った。

記録は、写真撮影と実測図面作成を行った。写真撮影については、中判デジタルカメラ及び記録用の 35mm フルサイズデジタルカメラを使用し、デジタル画像データ (RAW データ及び JPEG データ) には全てファイルごとに撮影内容を記載して保存している。記録図面は、縮尺 1 : 20 の遺構実測図 (遺構平面図・断面土層図) 及び遺構位置全体図を作成した。また、調査区 2 は南壁断面を基本とし、必要に応じて土層図などを記録として作成した。

第5章 調査の成果

第1節 調査概要 (図7、写真図版1)

調査区は北側の道路部分である調査区1との南側の既設水路及びその南にある果樹園及び畑の一部である調査区2に分かれる。

検出した遺構は、古墳時代後期から古代までの土坑や小穴、谷状地形及び丘陵末端の自然地形の落込み、中世の土坑、小穴、溝などである。

第2節 基本層序 (図6・8)

調査区2の南側断面土層の基本層序について記述する。

第1層：現代の果樹園耕土、既設道路並びに水路

の造成土・攪乱である。標高3.80m～4.00mで、東西方向にほぼ水平を保つ。

第2層：旧水田耕作土及びその床土である。

第3層：にぶい黄橙色から灰黄褐色の細砂を主体とする土層で弥生時代から中世の遺物を少量含む遺物包含層である。

第4層：黄褐色から明褐色の土層で背後の丘陵を構成する軟質岩盤及びその風化土が堆積した土層である。無遺物層で、遺構の多くは第4層上面から掘り込まれており、この上面が遺構面を形成する基盤層と考える。調査区北東では標高3.50m、西端では3.40mで現況の第1層と同じくほぼ水平を保つが、調査区の中央部では2.90mまで下がる。これは後述する谷状地形によるものである。

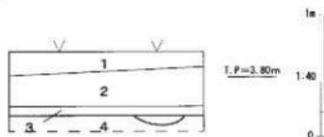


図6 基本層序 (2区南側)

第3節 遺構と遺物

〔古墳時代後期から古代の遺構と遺物〕

30土坑から53小穴は後述の自然地形の落込み埋土の下にある第4層から掘り込まれる。

30土坑 (図9、写真図版2・6) 調査区2東部で検出した土坑で、平面形状は楕円形を呈する。長軸0.60m、短軸0.24m、深さ0.22m、断面形状は三角形である。出土遺物は古代とみられる土師器・須恵器の細片がある。

31土坑 (図9、写真図版2・6) 調査区2東部で検出した土坑で、平面形状は楕円形を呈している。長軸0.5m、短軸0.32m、深さ0.20m、断面形状はやや歪な台形状である。出土遺物は古代とみられる土師器・須恵器の細片がある。

34土坑 (図9、写真図版2・6) 調査区2東部で検出した土坑で、平面形状は楕円形を呈し、長軸0.54m、短軸0.40m、深さ0.16mで断面形状は歪な船底形である。出土遺物は古墳時代中期から後期とみられる須恵器坏身(1)のほか古代とみられる土師器・須恵器の細片がある。

37小穴 (図9、写真図版3・6) 調査区2東部で検出した小穴で、平面形状は楕円形を呈し、長軸0.44m、短軸0.32m、深さ0.18mで断面形状は三角形である。出土遺物は古代とみられる須恵器の細片がある。

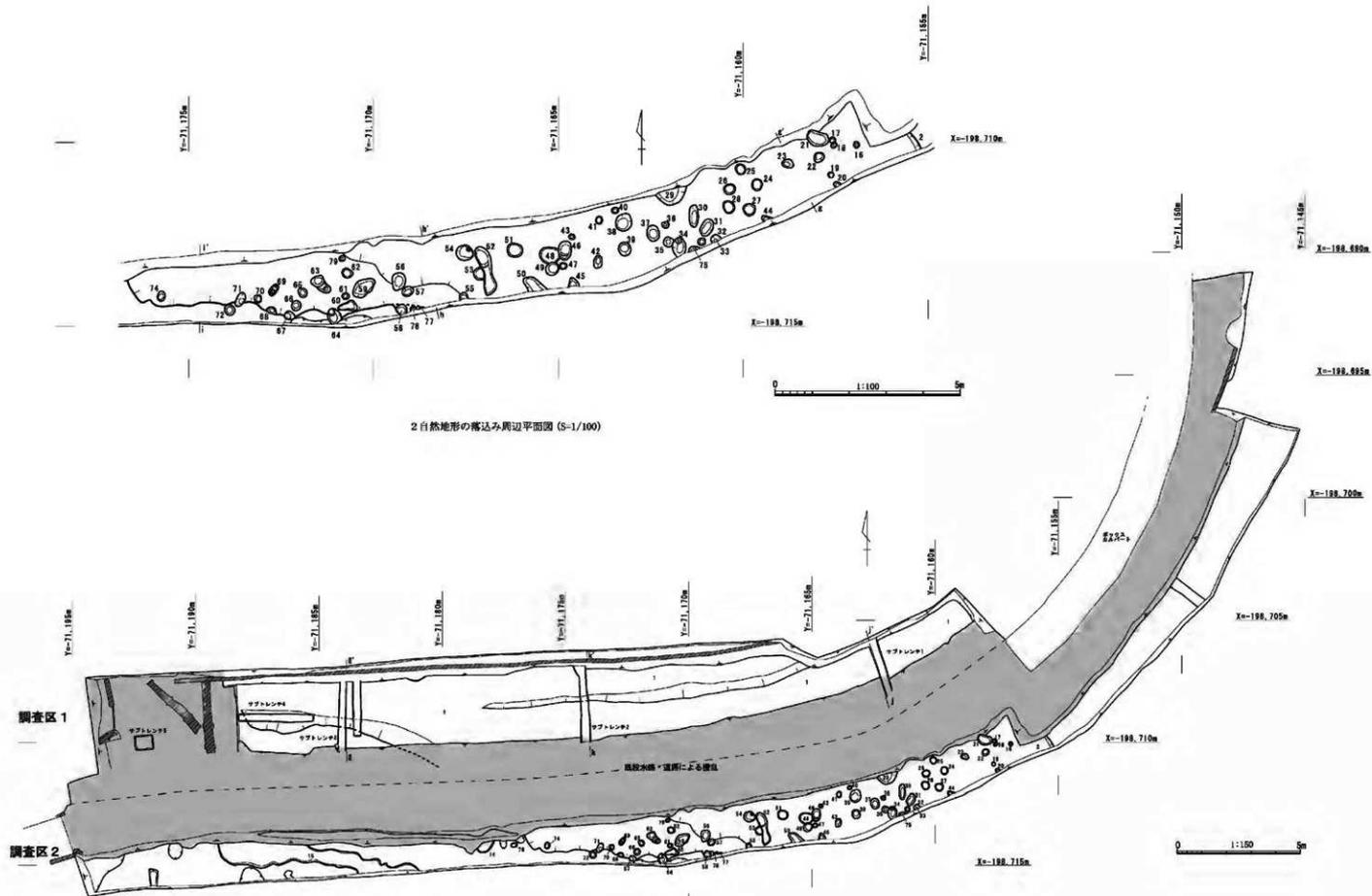


図7 遺構配置図

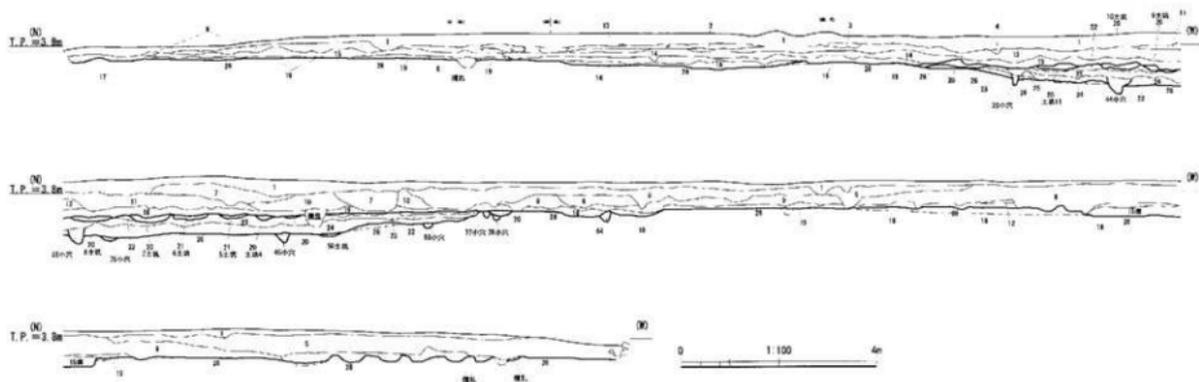


図 8 2区南壁土層断面図

- 1 10YR4/4暗緑砂礫シルト
- 2 10YR5/3に多い黄緑細～中粒砂礫シルト
φ1～16mm円礫・礫含
- 3 10YR4/2灰黄中粒砂礫シルト
- 4 10YR4/4暗緑細シルト
10YR3/3暗緑シルト層
2. 5Y4/4オリーブ黒緑砂礫シルト
7. 5YR4/6純緑砂礫シルト
- 6 10YR5/3暗少黄含
2. 5Y4/4オリーブ黒緑砂礫シルト
- 8 2. 5Y4/4オリーブ黒緑砂礫シルト
φ1～3mm暗少黄含
- 9 10YR5/4に多い黄緑細砂礫シルト
φ1～3mm暗少黄含
- 10 2. 5Y4/6黄緑細砂シルト少量団
φ1～3mm暗少黄含
- 11 10YR5/3に多い黄緑細砂シルト多量団
- 12 2. 5Y4/2灰黄シルト 砂少団層 (河水河床土)
- 13 10YR4/4暗緑細シルト含
- 14 10YR5/4に多い黄緑細～中粒砂礫シルト
- 15 10YR5/4に多い黄緑細～中粒砂礫シルト

- 16 10YR5/4に多い黄緑細砂シルト多く団
- 17 2. 5YR4/3暗シルト厚層砂
- 18 10YR4/4暗緑～暗砂礫シルト
- 19YR5/3に多い黄緑シルトブロック含
φ1～3mm暗少黄含
- 19 10YR5/3に多い黄緑シルト 細砂多量団
- 20 10YR5/2灰黄細シルト塊砂礫
- 10YR5/3に多い黄緑シルトブロック少量含 (暗黄緑土)
- 21 10YR5/2灰黄細シルト塊砂礫 (暗黄緑土)
- 22 10YR5/3に多い黄緑中粒砂礫シルト (自然地形の落込み層土)
- 23 10YR3/3暗緑シルト 細～中粒砂礫
φ1～3mm暗少黄含 (自然地形の落込み層土)
- 24 10YR4/4暗シルト 中粒砂礫
φ1～3mm暗含 (自然地形の落込み層土)
- 25 10YR5/4に多い黄緑細～中粒砂礫シルト
φ1～3mm暗少黄含 (自然地形の落込み層土)
- 26 10YR5/4黄緑シルト 細～中粒～粗粒 (自然地形の落込み層土)
- 27 2. 5YR4/6暗細～10YR4/6明黄緑 (崖土)

- 【20小穴】
- 1 10YR4/2灰黄細シルト厚中粒砂
- 【44小穴】
- 1 10YR4/4に多い黄緑シルト 細～粗砂
- 【32・75小穴】
- 1 10YR4/2灰黄細シルト厚中粒～粗砂
- 【45小穴】
- 1 10YR4/4暗シルト 粗中粒砂
- φ1～3mm暗含
- 【50土層・55・64小穴】
- 1 10YR5/4に多い黄緑シルト厚中粒砂
- 【77・79小穴】
- 1 10YR5/3暗緑シルト 中粒～粗砂多量団
- 【158】
- 1 7. 5YR4/6暗シルト
 - 10YR3/2暗緑シルトブロック含
 - φ1～3mm暗黄緑土含

- 基本層序
- 1～6…第1層
 - 7～15…第2層
 - 19…第3層
 - 20～21…中世以降の陥没堆土
 - 22～26…2自然地形の落込み層土
 - 28…第4層

表2 遺構一覽

| 遺構番号 | 大区画 | 小区画 | 種類 | 形状 | 長さ(m) 長径 | 幅(m) 短径 | 深さ(m) | 出土遺物 | 備考 |
|------|-----|------|-------|------|-------------|------------------|-------|----------------------|------------------|
| 1 | B8 | | 溝 | 溝状か | 30.0 | 3.0 | 不明 | 弥生土器、土師器、須恵器、瓦葺近世陶磁器 | 図11、12 |
| 2 | B8 | | 溝も伏溝溝 | 不整形 | 21.60 | 約2.00 | 約0.60 | 弥生土器、土師器、須恵器、瓦葺近世陶磁器 | 図10、12 |
| 4 | B8 | q4 | 土坑 | 半円形 | 0.82 | 0.18 | 0.10 | | |
| 5 | B8 | p4 | 土坑 | 半円形 | 0.64 | 0.28 | 0.06 | | |
| 6 | B8 | p4 | 土坑 | 半円形 | 0.78 | 0.44 | 0.08 | | |
| 7 | B8 | p4 | 土坑 | 半円形 | 0.80 | 0.34 | 0.12 | | |
| 8 | B8 | p4 | 土坑 | 半楕円形 | 0.98 | 0.19 | 0.10 | | |
| 9 | B8 | a-p4 | 土坑 | 半楕円形 | 0.84 | 0.78 | 0.08 | | |
| 10 | B8 | p4 | 土坑 | 半楕円形 | 0.90 | 0.08 | 0.14 | | |
| 11 | B8 | o4 | 土坑 | 半楕円形 | 0.90 | 0.12 | 0.12 | | |
| 13 | B8 | s4 | 土坑 | 円形 | 0.50 | 0.47 | 0.18 | | |
| 14 | B8 | 14 | 土坑 | 楕円形 | 0.78 | 0.40 | 0.12 | | |
| 15 | B8 | u-w4 | 溝 | | 8.30 | 溝小0.50 溝大0.68 | 0.12 | 土師器 | |
| 16 | B8 | o3 | 小穴 | 円形 | 0.18 | 0.14 | 0.14 | 土師器 | |
| 17 | B8 | o3 | 小穴 | 円形 | 0.14 | 0.14 | 0.40 | | 図で21土坑とつながる |
| 18 | B8 | o3 | 小穴 | 円形 | 0.14 | 0.16 | 0.10 | | |
| 19 | B8 | o3 | 小穴 | 円形 | 0.14 | 0.14 | 0.24 | | |
| 20 | B8 | o3 | 小穴 | 半円形 | 0.18 | 0.14 | 0.24 | | |
| 21 | B8 | o3 | 土坑 | 楕円形 | 0.60 | 0.40 | 0.44 | 土師器 | |
| 22 | B8 | o3 | 小穴 | 円形 | 0.20 | 0.28 | 0.05 | | |
| 23 | B8 | o3 | 小穴 | 楕円形 | 0.34 | 0.24 | 0.10 | | |
| 24 | B8 | o3 | 小穴 | 円形 | 0.20 | 0.20 | 0.09 | | |
| 25 | B8 | p3 | 小穴 | 円形 | 0.22 | 0.28 | 0.08 | | |
| 26 | B8 | p3 | 小穴 | 円形 | 0.20 | 0.28 | 0.08 | | |
| 27 | B8 | o3 | 小穴 | 円形 | 0.24 | 0.22 | 0.08 | | |
| 28 | B8 | p3 | 小穴 | 円形 | 0.24 | 0.22 | 0.11 | | |
| 29 | B8 | p3 | 土坑 | 半円形 | 0.90 | 0.47 | 0.10 | | |
| 30 | B8 | p3・4 | 土坑 | 楕円形 | 0.60 | 0.24 | 0.22 | 土師器、須恵器、土師器、須恵器 | 図9 |
| 31 | B8 | p4 | 土坑 | 楕円形 | 0.60 | 0.22 | 0.20 | 土師器、須恵器、土師器、須恵器 | 図9 |
| 32 | B8 | p4 | 小穴 | 半円形 | 0.28 | 0.20 | 0.22 | | |
| 33 | B8 | p4 | 小穴 | 円形 | 0.20 | 0.20 | 0.18 | | |
| 34 | B8 | p4 | 土坑 | 楕円形 | 0.54 | 0.40 | 0.16 | 土師器、須恵器 | 図9、図12 |
| 35 | B8 | p4 | 小穴 | 円形 | 0.28 | 0.24 | 0.12 | | 24土坑より古い、図9 |
| 36 | B8 | p4 | 小穴 | 円形 | 0.20 | 0.20 | 0.08 | | |
| 37 | B8 | p4 | 小穴 | 楕円形 | 0.44 | 0.22 | 0.18 | 須恵器 | 図9 |
| 38 | B8 | p4 | 小穴 | 円形 | 0.44 | 0.44 | 0.26 | 土師器 | |
| 39 | B8 | p4 | 小穴 | 円形 | 0.38 | 0.34 | 0.24 | | |
| 40 | B8 | p4 | 小穴 | 円形 | 0.16 | 0.16 | 0.18 | | |
| 41 | B8 | p4 | 小穴 | 楕円形 | 0.22 | 0.18 | 0.08 | | |
| 42 | B8 | p4 | 小穴 | 楕円形 | 0.24 | 0.22 | 0.14 | | |
| 43 | B8 | o4 | 小穴 | 円形 | 0.16 | 0.16 | 0.16 | | |
| 44 | B8 | p4 | 小穴 | 半楕円形 | 0.20 | 0.12 | 0.22 | | |
| 45 | B8 | o4 | 小穴 | 半楕円形 | 0.28 | 0.25 | 0.20 | | |
| 46 | B8 | o4 | 土坑 | 楕円形 | 0.52 | 0.34 | 0.22 | | 図9 |
| 47 | B8 | o4 | 小穴 | 円形 | 0.20 | 0.20 | 0.05 | | |
| 48 | B8 | o4 | 土坑 | 楕円形 | 0.50(東西) | 0.42(南北) | 0.06 | | 46土坑・48小穴より古い、図9 |
| 49 | B8 | o4 | 小穴 | 円形 | 0.40 | 0.22 | 0.22 | 土師器 | 図9 |
| 50 | B8 | o4 | 土坑 | 半楕円形 | 0.52 | 0.42 | 0.08 | | |
| 51 | B8 | o4 | 小穴 | 円形 | 0.40 | 0.32 | 0.10 | | |
| 52 | B8 | o4 | 土坑 | 溝状 | 1.32 | 0.28 | 0.06 | | 図9 |
| 53 | B8 | o4 | 小穴 | 円形 | 0.26 | 0.26 | 0.08 | | 図9 |
| 54 | B8 | o4 | 小穴 | 円形 | 0.46 | 0.40 | 0.06 | | 47土坑より古い |
| 55 | B8 | o4 | 小穴 | 半円形 | 0.12 | 0.40 | 0.12 | | |
| 56 | B8 | r4 | 小穴 | 楕円形 | 0.40 | 0.24 | 0.28 | | |
| 57 | B8 | r4 | 小穴 | 円形 | 0.34 | 0.26 | 0.24 | | |
| 58 | B8 | r4 | 小穴 | 円形 | 0.28 | 0.26 | 0.18 | | |
| 59 | B8 | r4 | 土坑 | 楕円形 | 0.20 | 0.40 | 0.26 | | |
| 60 | B8 | r4 | 土坑 | 楕円形 | 0.54 | 0.22 | 0.20 | | |
| 61 | B8 | r4 | 小穴 | 円形 | 0.20 | 0.20 | 0.10 | | |
| 62 | B8 | r4 | 小穴 | 円形 | 0.20 | 0.25 | 0.14 | | |
| 63 | B8 | r4 | 小穴 | 楕円形 | 0.58 | 0.26 | 0.20 | | |
| 64 | B8 | r4 | 小穴 | 楕円形 | 0.42 | 0.26 | 0.20 | | |
| 65 | B8 | r4 | 小穴 | 楕円形 | 0.28 | 0.22 | 0.08 | | |
| 66 | B8 | s4 | 小穴 | 円形 | 0.20 | 0.28 | 0.14 | | |
| 67 | B8 | s4 | 小穴 | 楕円形 | 0.20 | 0.24 | 0.24 | | |
| 68 | B8 | s4 | 小穴 | 楕円形 | 0.28 | 0.20 | 0.22 | | |
| 69 | B8 | s4 | 小穴 | 楕円形 | 0.24 | 0.18 | 0.10 | | |
| 70 | B8 | s4 | 小穴 | 円形 | 0.20 | 0.20 | 0.16 | | |
| 71 | B8 | s4 | 小穴 | 楕円形 | 0.42 | 0.20 | 0.28 | | |
| 72 | B8 | s4 | 小穴 | 円形 | 0.20 | 0.28 | 0.07 | | |
| 74 | B8 | s4 | 小穴 | 円形 | 0.22 | 0.20 | 0.26 | | |
| 75 | B8 | p4 | 小穴 | 半円形 | 0.24 | 0.12 | 0.06 | 土師器 | |
| 76 | B8 | t4 | 小穴 | 楕円形 | 0.26 | 0.16 | 0.18 | | |
| 77 | B8 | r4 | 小穴 | 半円形 | 0.12 | 0.06 | 0.14 | | |
| 78 | B8 | r4 | 小穴 | 半円形 | 0.20 | 0.10 | 0.10 | | |
| 79 | B8 | r4 | 小穴 | 円形 | 0.16 | 0.14 | 0.15 | | |

※3・12・73は欠番
※数値は全て概出長

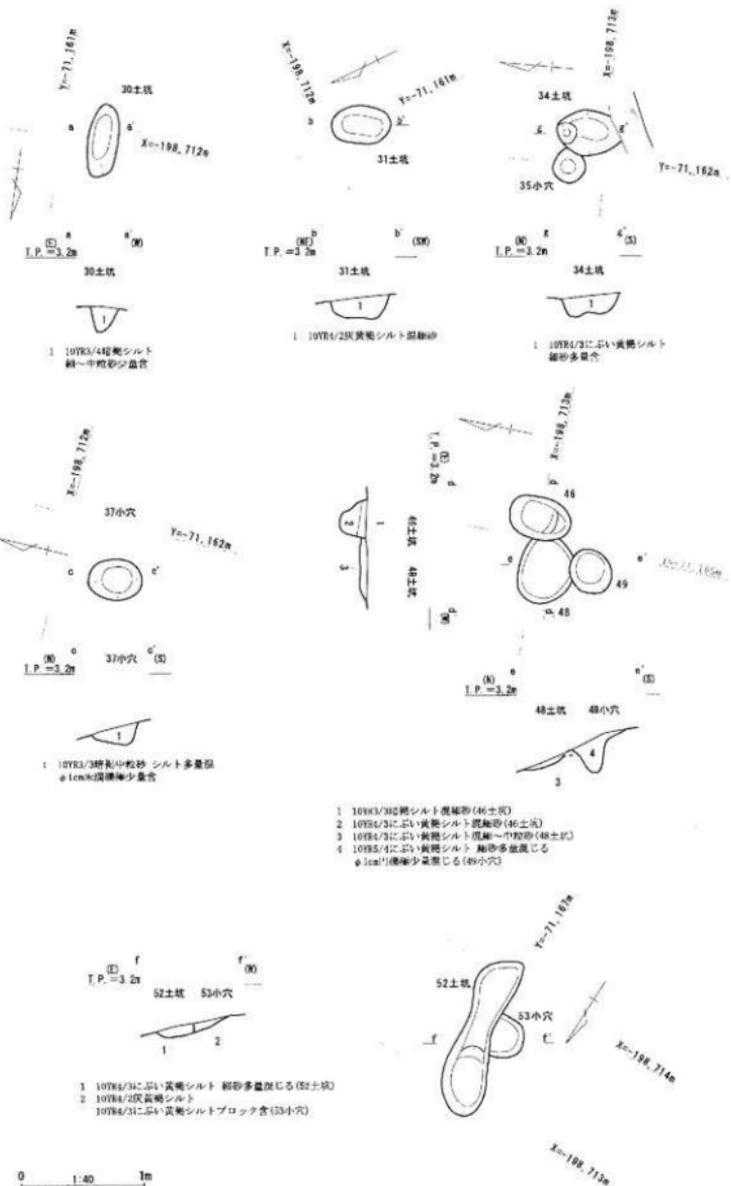


図9 土坑・小穴実測図

46 土坑 (図9、写真図版3・4・6) 調査区2東部で検出した土坑で、遺構の前後関係から48土坑より新しい。平面形状は楕円形を呈しており、長軸0.52m、短軸0.34m、深さ0.22m、断面形状は歪な台形状である。出土遺物は古代とみられる土師器細片がある。

48 土坑 (図9、写真図版3・4・6) 調査区2東部で検出した土坑で、遺構の前後関係から46土坑・49小穴より古い。平面形状は円形で長軸0.50m、短軸0.42m、深さ0.06m、断面形状はごく浅い船底形を呈する。出土遺物はなかった。

49 小穴 (図9、写真図版4・6) 調査区2東部で検出した小穴で、平面形状は円形で長軸0.40m、短軸0.32m、深さ0.32m、断面形状は歪な三角形形状である。出土遺物は土師器の細片がある。

52 土坑 (図9、写真図版4・6) 調査区2東部で検出した土坑で、遺構の前後関係から53小穴より新しい。平面形状は溝状で長軸は1.32m、短軸0.28m、深さは0.08m、断面形状は船底形である。出土遺物はなかった。

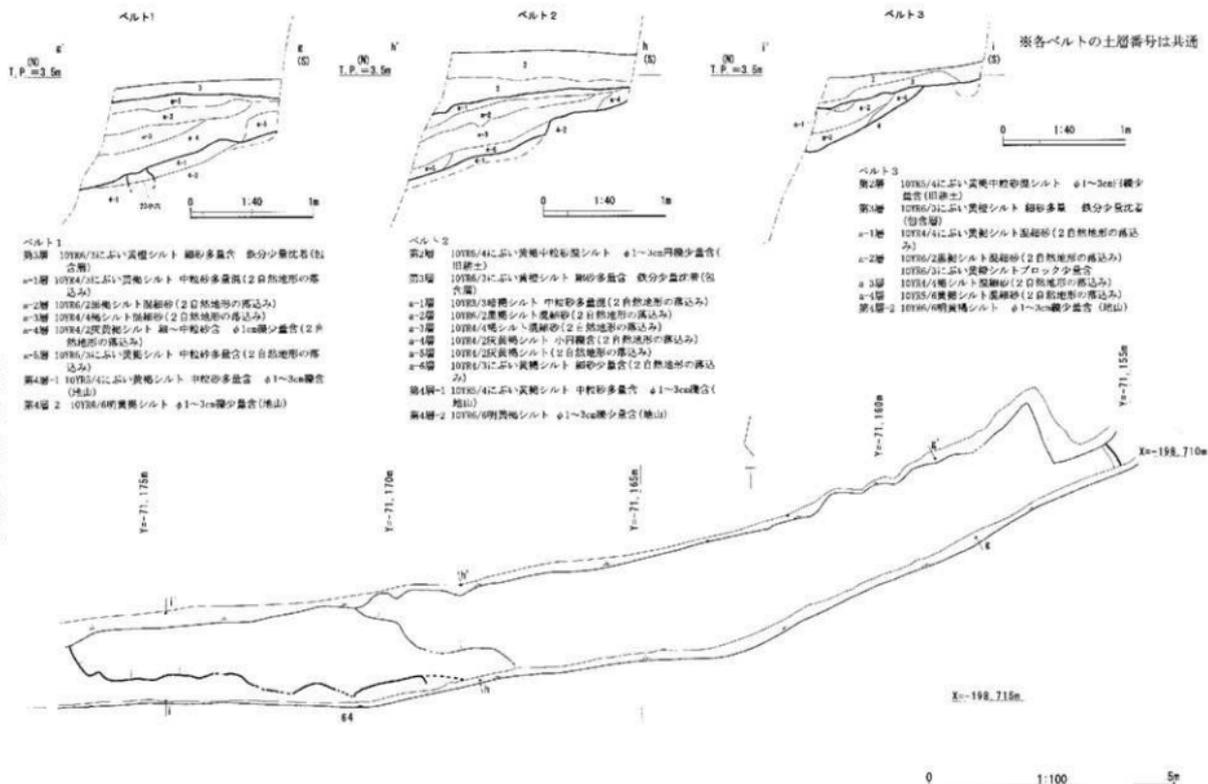
53 小穴 (図9、写真図版4・6) 調査区2東部で検出した小穴で、遺構の前後関係から52土坑より古い。平面形状は円形で長軸は0.63m、短軸0.26m、深さは0.06mである。出土遺物はなかった。

〔古代から中世の遺構と遺物〕

2 自然地形の落込み (図10、写真図版5・6) 調査区2で検出した自然地形だが、人為的に削平した可能性のある痕跡があるため、遺構として報告する。検出長21.50m、検出幅約2.00m、深さ約0.80m。遺構北側は既設水路により大きく攪乱されており、本来の規模や断面形状等については不明である。埋土は大きく上下2層(a-1～2層とa-3～5層)に分けることができ、下層では古代の土師器甕の口縁部(2)、須恵器壺とみられる体部(3)が出土し、上層では古墳時代後期の須恵器坏身(4)、大甕の体部(9・10)古墳時代後期から古代とみられる甕または壺の口縁部(5～8)、土師器の坏(14)、古代の須恵器甕口縁部(11)、脚付壺(12・13)、土師器碗(15)、鉢(16)、古代未から中世の遺物として黒色土器A類椀(17)、土師器かまど(18)が出土するほか、細片のため実測していないが弥生土器片や瓦器が出土しており、比較的量も多いことなどから、埋没時期は古墳時代後期から古代(下層)と中世以降(上層)の2時期が考えられる。ただし、埋土上層には土師器皿や国内産陶磁器などが出土しないことから、埋土上層の埋没時期は中世前半までと判断できる。また、埋土上層に多様な時期の遺物が含まれるのは、調査地北東にある相方遺跡や丘陵上及びその斜面地にあった遺物を押し流しながら埋没したためと考える。

出土した遺物の中には須恵器大甕の破片が複数含まれており、個体数の復元が困難ではあるが、調整や胎土の違いから複数個の大甕が存在していたことが推測できる。このため調査区南の丘陵上に未発見もしくはすでに削平された古墳があり、出土した須恵器は古墳祭祀に由来する大甕の破片の可能性も指摘しておきたい。遺構南側は丘陵部の小規模な谷状地形、その末端部に位置している。また、今回の調査区北東部にあたる平成27年度の既往調査地で丘陵末端の自然地形及び既設水路に沿った東西方向の落込み(51自然地形の落込み)を確認しており、埋土に弥生時代から中世の遺物を含む。既往調査の51自然地形と2自然地形の落込みが関連すると考えられるが、51自然地形の落込みには特に奈良時代の遺物を多く含むこと、また埋土に差異がみられることから連続するとは断定できない。2自然地形の落込みの埋土下の第4層上面で前述のとおり多くの土坑・小穴を検出している。

図10 2 自然地形の落ち込み実測図



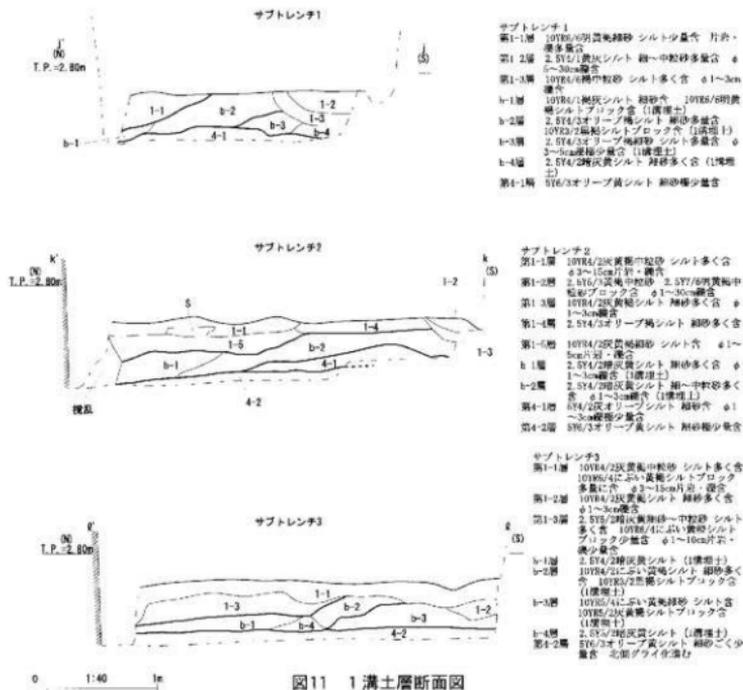


図11 1 溝土層断面図

〔中世以降の遺構と遺物〕

1 溝 (図 11、写真図版 7) 調査区 1 で検出した溝とみられる遺構である。既設道路の擾乱により埋土も大きく削平されており、規模・断面形状等について詳細は不明なもの、検出長約 30.0m、検出幅 3.00m で調査区 1 の擾乱を受けた西側以外のすべてが遺構と考えられる。溝は調査区外北へ広がるとみられるが、隣接する現状の水路と異なり、調査区西側で北に湾曲するとみられる。調査区南側にある丘陵末端の自然地形の落込みを利用し、低湿地のシルト質土を開削した用水路の可能性が高い。出土遺物は瓦器椀 (19～23)、瓦器皿 (24) があり、1 溝の埋没時期については 12 世紀ごろの可能性が高いと考えられ、中世に日前宮が土地開発に伴って開削した宮井新溝の一部と考える。

遺物包含層等の出土遺物 (図 12、写真図版 9)

今回の調査において遺物包含層出土及び擾乱等によって原位置を離れたと見られる遺物は以下の通りである。

須恵器壺口縁部 (25)、須恵器環 (26) は調査区 1 の 1 溝埋土から出土しているが他の遺物の出土状況から混入した遺物と考える。土師器土釜 (27) は調査区 2 の既設水路の擾乱土から出土している。

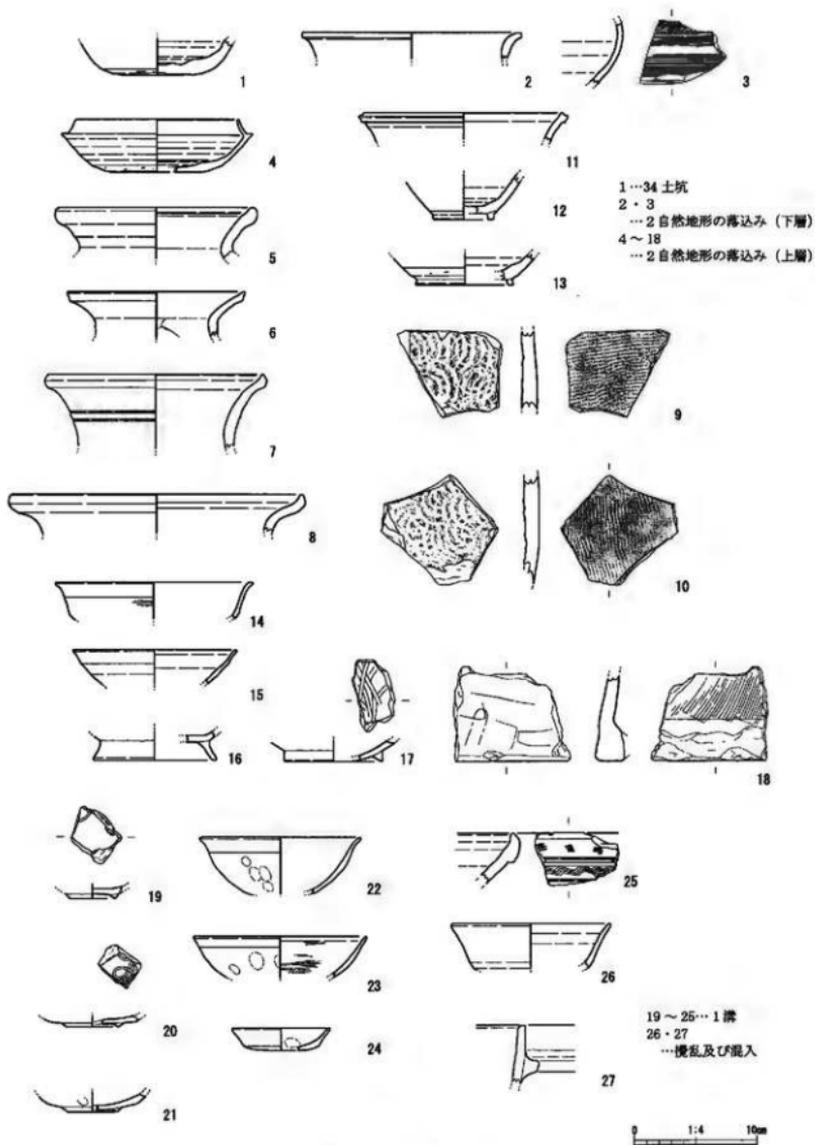


図12 出土遺物実測図

第6章 まとめ

今回の調査では、遺構が本来展開していたと考えられる丘陵末端部について既設道路及び水路の攪乱の影響を強く受けていたことが分かった。特に調査区1は遺構埋土まで攪乱の影響を強く受けており、検出した1溝の規模等については推定の域を出ない。また調査区2でも既設水路の攪乱の影響で2自然地形の落込みの全容を把握することが困難な状況である。ただし、遺構の検出状況及び土層断面、出土遺物を検討した結果、調査区周囲の土地利用について以下のように復元案を示す(図13)。

まず古墳時代から古代にかけて、調査地南側丘陵部裾部で、谷状地形にあって比較的緩やかな傾斜を持つ部分(①)に多数の土坑・小穴が集中する(②)。今回確認した2自然地形の落込み部分がこれにあたる。これは相方遺跡における竪穴建物をはじめとした弥生時代後期から鎌倉時代まで断続的に続く人々の活動と重なる部分がある。しかし、相方遺跡で検出した竪穴建物や柱穴は確認できなかった。そのため相方遺跡における集落の居住域とは考えにくく、丘陵裾部の高まりに相方遺跡の集落の人々の活動の痕跡がわずかに残ったものと理解できる。またこの時期、調査地の北側は、基本層序第4層の自然堆積層がグラライ化していることから低湿地帯が広がっていた可能性が高い。

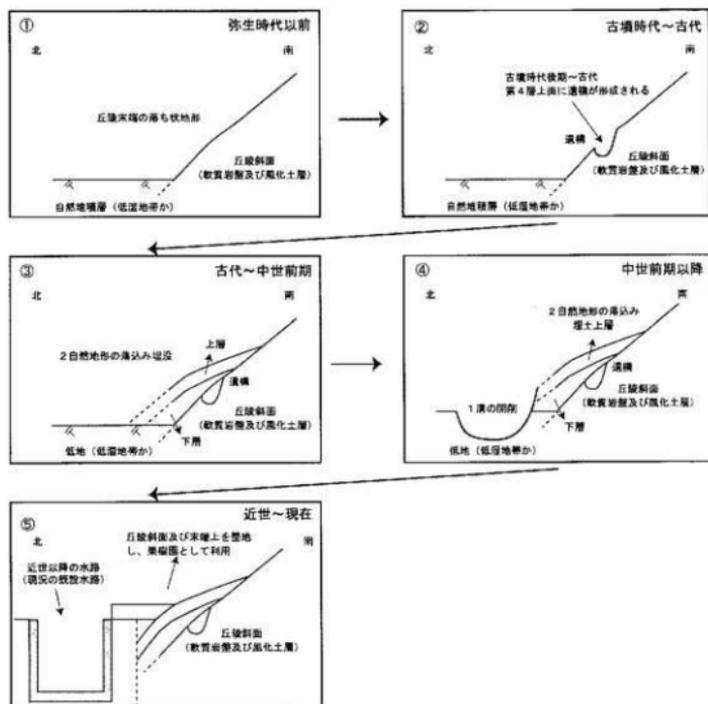


図13 調査地周辺の土地利用変遷案

次に、2自然地形の落込みが埋没する(③)。埋上の堆積状況と出土遺物から、南側の丘陵上及び斜面の遺構を浸食し、堆積土に含まれる遺物を押し流しながら次第に埋没していったと考えられる。また、2自然地形の落込みから出土する遺物の中には、個体数を復元できないものの、須恵器の大甕の体部とみられる破片が出土している。現状、調査区南の丘陵上に古墳は確認できないが、岩橋千塚古墳群寺内地区では須恵器祭祀を伴う古墳の存在が発掘調査から明らかになっており、同様の須恵器祭祀を伴う古墳が存在していた可能性がある。2自然地形の落込みの埋土下層から中世の遺物が出土しないこと、埋土上層からは古代末から中世前半とみられる土師器の細片や瓦器破片が出土することから、埋没時期は古代末と鎌倉時代の2時期が想定できる。

一方、湿地帯が広がっていた調査区1付近では、出土した遺物から12世紀以降、用水路とみられる1溝が掘削され、調査区北側へ生産域が拡大していたと考えられる(④)。その後、この1溝を踏襲しながら次第に丘陵裾部に沿うように北及び南側に延長され、現在の用水路と生産域を形成していったと考えられる(⑤)。

今回の発掘調査は埋蔵文化財包蔵地図によれば岩橋千塚古墳群寺内地区の範囲であるが、検出した遺構及び出土遺物の内容は相方遺跡に由来するものと考えられ、当該遺跡の範囲の想定については更なる調査を要すると思われる。

表3 出土遺物観察表 ※()は復元値

| 発掘調査 年度 | 発掘 区画 番号 | 発掘 地点 | 遺物 層位 | 種類 | 群属 | 数量 (口数/対高/直径) | 形状・技法 | 出土 | 状況 | 色調 | 備考 | | | |
|------------|----------------|----------|------------|----------------|-----|------------------|-----------------|------------------|--|---|--------------|----------------|----------------|------|
| 1 | 23 | 048 | 2区 p050 | 34 土師器 | 鉢 | - | 2.0φ(7.3) | 底縁 60% | 外周溝部に凹線ヘラズリ、内 面、外周縁部に凹線ヘラズリ | やや粗 1~2mmの石瓦1数量 | 良好 | 内面:黄白 外面:黄白 | 瓦製復元 | |
| 2 | 19 | 013 | 2区 p050 | 埋土2層 (高岡色土) | 土師器 | 甕 | 17.8, 2.1φ | 2以下 | 全体にコノナデか? | 滑らかな白色砂粒少量 | 良好 | 内面:黄白 外面:黄白 | 瓦製復元 | |
| 3 | 25 | 048 | 2区 p050 | 埋土2層 (高岡色土) | 土師器 | 甕? | - | 3.1φ | 内面に凹線ヘラズリ、外周上部に かき目・凹線ヘラズリ、外周下部に かき目、ヘラズリ | 滑 最大2mmの石瓦7数量 | 良好 | 内面:黄白 外面:黄白 | 瓦製復元 | |
| 4 | 9 | 055 | 2区 p050 | 埋土1層 (高岡色土) | 土師器 | 坏 | 13.2, 4.3φ(7.5) | 20% | 内面に凹線ヘラズリ、外周上部 に凹線ヘラズリ、高直りか | 滑 最大2mmの石瓦7数量 | 良好 | 内面:黄白 外面:黄白 | 瓦製復元 | |
| 5 | 12 | 042 | 2区 p050 | 埋土1層 (高岡色土) | 土師器 | 甕? | 13.8, 4.2φ | 20% | 内面に凹線ヘラズリ、内周・口縁 部、外周縁部に凹線ヘラズリ | 滑 1~2mmの石瓦少量 | 良好 | 内面:黄白 外面:黄白 | 瓦製復元 | |
| 6 | 15 | 040 | 2区 p050 | 埋土2層 (高岡色土) | 土師器 | 甕 | 14.6, 3.8φ | 20% | 内外面に凹線ヘラズリ、内外面 部にヘラズリ | 滑 滑らかな白色砂粒少量 | 良好 | 内面:黄白 外面:黄白 | 瓦製復元 | |
| 7 | 14 | 043 | 2区 p050 | 埋土2層 (高岡色土) | 土師器 | 甕 | 17.4, 6.1φ | 20% | 内外面に凹線ヘラズリ、全体に凹 線ヘラズリ | 滑 滑らかな白色砂粒少量 | 良好 | 内面:黄白 外面:黄白 | 瓦製復元 | |
| 8 | 13 | 046 | 2区 p050 | 埋土1層 (高岡色土) | 土師器 | 甕 | 23.4, 3.2φ | 20% | 内外面に凹線ヘラズリ、内面・口縁 部に凹線ヘラズリ | 滑 1~4mmの石瓦少量 | 良好 | 内面:黄白 外面:黄白 | 瓦製復元 | |
| 9 | 26 | 040 | 2区 p050 | 埋土2層 (高岡色土) | 土師器 | 甕 | - | 2以下 | 同心円文、タタキ縁カキ目 | 滑 滑らかな白色砂粒少量、 最大7mmの石瓦数量 | 良好 | 内面:黄白 外面:黄白 | 瓦製復元 | |
| 10 | 27 | 040 | 2区 p050 | 埋土2層 (高岡色土) | 土師器 | 甕 | - | 2以下 | 同心円文、タタキ縁カキ目、 自然磨き面か? | 滑 滑らかな白色砂粒少量 | 良好 | 内面:黄白 外面:黄白 | 瓦製復元 | |
| 11 | 21 | 043 | 2区 p050 | 埋土2層 (高岡色土) | 土師器 | 甕 | 16.0, 2.2φ | 20% | 全体に凹線ヘラズリ | 滑 滑らかな白色砂粒少量 | 良好 | 内面:黄白 外面:黄白 | 瓦製復元 | |
| 12 | 10 | 047 | 2区 p050 | 埋土1層 (高岡色土) | 土師器 | 甕 | 3.7φ(4.8) | 高直部 2% | 内外面に凹線ヘラズリ、外周縁部 にヘラズリ、高直りあり | 滑 滑らかな白色砂粒少量 | 良好 | 内面:黄白 外面:黄白 | 瓦製復元 | |
| 13 | 20 | 043 | 2区 p050 | 埋土2層 (高岡色土) | 土師器 | 甕 | - | 3.5φ(8.0) | 高直部 1% | 内面、外周上部に凹線ヘラズリ、外 周下部に凹線ヘラズリ、高直り 付付重直り | 滑 滑らかな白色砂粒少量 | 良好 | 内面:黄白 外面:黄白 | 瓦製復元 |
| 14 | 24 | 075 | 2区 p050 | 埋土1層 (高岡色土) | 土師器 | 坏 | 15.3, 3.0φ | 20% | 口縁部ヘラズリ、内面、外周下 部にヘラズリカキ目、高直り付 付重直り | 滑 滑 | 良好 | 内面:黄白 外面:黄白 | 瓦製復元 | |
| 15 | 18 | 044 | 2区 p050 | 埋土1層 (高岡色土) | 土師器 | 甕? | 13.3, 2.8φ | 20% | 口縁部コノナデ、内外面にユ ビオサエ・ヘラズリあり | 滑 滑らかな白色砂粒少量 | 良好 | 内面:黄白 外面:黄白 | 瓦製復元 | |
| 16 | 17 | 043 | 2区 p050 | 埋土2層 (高岡色土) | 土師器 | 鉢? | - | 2.4φ(32.0) | 内外面デコボコ、高直り付 | 滑 1mm以下~3mmの赤色 酸化粒少量 | 良好 | 内面:黄白 外面:黄白 | 瓦製復元 | |
| 17 | 11 | 040 | 2区 p050 | 埋土1層 (高岡色土) | 土師器 | 甕 | - | 1.7φ(高直部 25%) | 内周ヘラズリ、高直り付重直り、内 面にヘラズリカキ目(不明確) | 滑 1mm以下の赤色酸化粒 少量、1~2mmの石瓦少量 | 良好 | 内面:黄白 外面:黄白 | 瓦製復元 | |
| 18 | 16 | 042 | 2区 p050 | 埋土1層 (高岡色土) | 土師器 | 甕 | 高直部 1.1 | 2以下 | ユビオサエ・工具によるヘラズリ、 高直り付重直り、高直り付重直り、 高直り付重直り | 滑 滑らかな石瓦、赤色酸化粒 少量 | 良好 | 内面:黄白 外面:黄白 | 瓦製復元 | |
| 19 | 4 | 033 | 1区 p050 | 埋土2層 (高岡色土) | 土師器 | 甕 | 1.0φ(3.8) | 高直部 50% | 高直り付重直り、内外面に凹線、 高直り付重直り、高直り付重直り、 高直り付重直り | 滑 1mm以下の赤色酸化粒少 量 | 良好 | 内面:黄白 外面:黄白 | 瓦製復元 | |
| 20 | 8 | 026 | 1区 p050 | 埋土2層 (高岡色土) | 土師器 | 甕 | - | 1.0φ(4.3) | 内面にコノナデ・ヘラズリあり、 内面にヘラズリ、高直り付重直り、 内面にヘラズリカキ目(不明確) | 滑 滑らかな白色砂粒少量 | 良好 | 内面:黄白 外面:黄白 | 瓦製復元 | |
| 21 | 3 | 024 | 1区 p050 | 埋土2層 (高岡色土) | 土師器 | 甕 | - | 1.6φ(4.0) | 内面にコノナデ・ヘラズリあり、 高直り付重直り、内面にヘラズリカ キ目、高直り付重直り | 滑 滑らかな石瓦(1)少量 | 良好 | 内面:黄白 外面:黄白 | 瓦製復元 | |

| 年月日 | 実施場所 | 実施種別 | 地区 | 通報種別 | 種類 | 距離 | 高さ(m) 口径(縦長)感径 | 検出率 (割合) | 形態・技法 | 出土 | 構成 | 色調 | 備考 | | | |
|-----|------|------|----------------|------------------------------|----|-----|-------------------|-------------|-------|---|----------------------------|--------------|-------------------------------------|------------------|------------------------|--|
| 22 | 5 | 033 | 1区 1区 1区 | 遺土下層 (遺物検出) | 瓦器 | 輪 | (13.0) 4.6+ | - | 20% | 内面にニドオエナテあり、口縁部にコナナテあり。他は平。内面にヘラミナカ。裏面中央の遺物検出 | 密 | 最大7cm位の石炭?燐炭 | 良好 | 内外面:灰白-灰 断面:灰 | 貯蔵器か 反転復元 | |
| 23 | 7 | 036 | 1区- 2区 | 遺土下層 (遺物検出) | 瓦器 | 輪 | (14.0) 3.4+ | - | 10% | 内面にニドオエナテあり。口縁部コナナテあり。他、平の反り平。内面にヘラミナカ(不明) | 密 | | 良好 | 内外面:暗灰 断面:灰白 | 反転復元 | |
| 24 | 7 | 005 | 1区 | 遺物から (遺物検出) | 瓦器 | 輪 | (8.0) 1.8 (6.0) | - | 20% | 口縁部にコナナテ。内外面にニドオエナテあり | 密 | | 良好 | 内外断面:灰 | 反転復元 | |
| 25 | 1 | 005 | 1区 | 遺物から (遺物検出) | 瓦器 | 口縁部 | - | 4.1+ | - | 5%以下 | 内外面に口縁コナナテ。断面に口縁ヘラミナカ。形状不明 | 密 | 最大3cm位の石炭燐炭 | 良好 | 内面:黄灰 外面:灰 断面:灰白 | |
| 26 | 6 | 036 | 1区- 2区 | 遺土下層 (遺物検出) | 瓦器 | 坏 | (13.0) 3.7+ | - | 10% | 内外面に口縁コナナテ。口縁部中外に反り平 | 密 | | 良好 | 内外断面:灰 | 反転復元 | |
| 27 | 22 | 051 | 2区 | 遺物常備 検出 遺物 遺物 土器 | 土器 | 土器 | - | 4.8+ | - | 5%以下 | 口縁部コナナテ。内面に工風によるナテあり。胴部反り付 | 密 | 1-5cmの石炭中量、1-1cmの石炭少量、1-2cmの赤色燐化石少量 | 良好 | 内外面:暗 断面:暗赤 | |



1 調査地遠景（北東から）



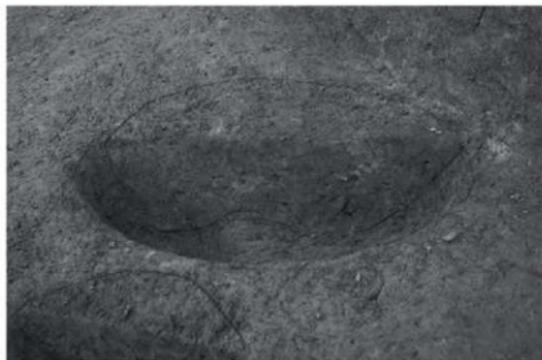
2 調査前風景（西から）



1 30土坑南壁土層断面
(北から)



2 31土坑南東壁土層断面
(北西から)



3 34土坑東壁土層断面
(西から)

1 37小穴北東壁土層断面
(南西から)



2 46・48土坑南壁土層断面1
(北から)



3 48土坑北壁土層断面2
(南から)





1 46・49土坑東壁土層断面
(西から)



2 48土坑西壁土層断面
(東から)



3 52・53土坑北壁土層断面
(南から)

1 2 自然地形の落込みベルト1
土層断面 (西から)



2 2 自然地形の落込みベルト2
土層断面 (西から)



3 2 自然地形の落込みベルト3
土層断面 (西から)





1 土坑・小穴完掘状況（北から）



2 自然地形の落込み・土坑・小穴完掘状況（北東から）

1 1溝サブトレンチ1土層断面
(東から)

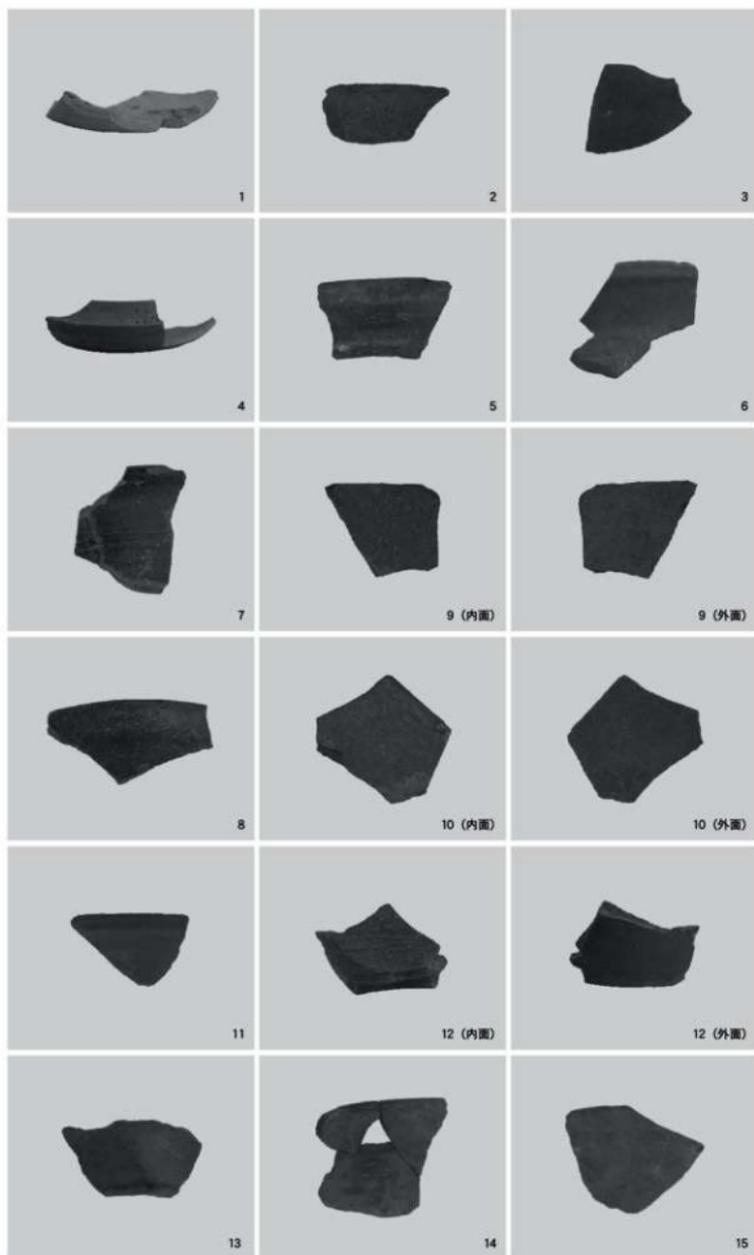


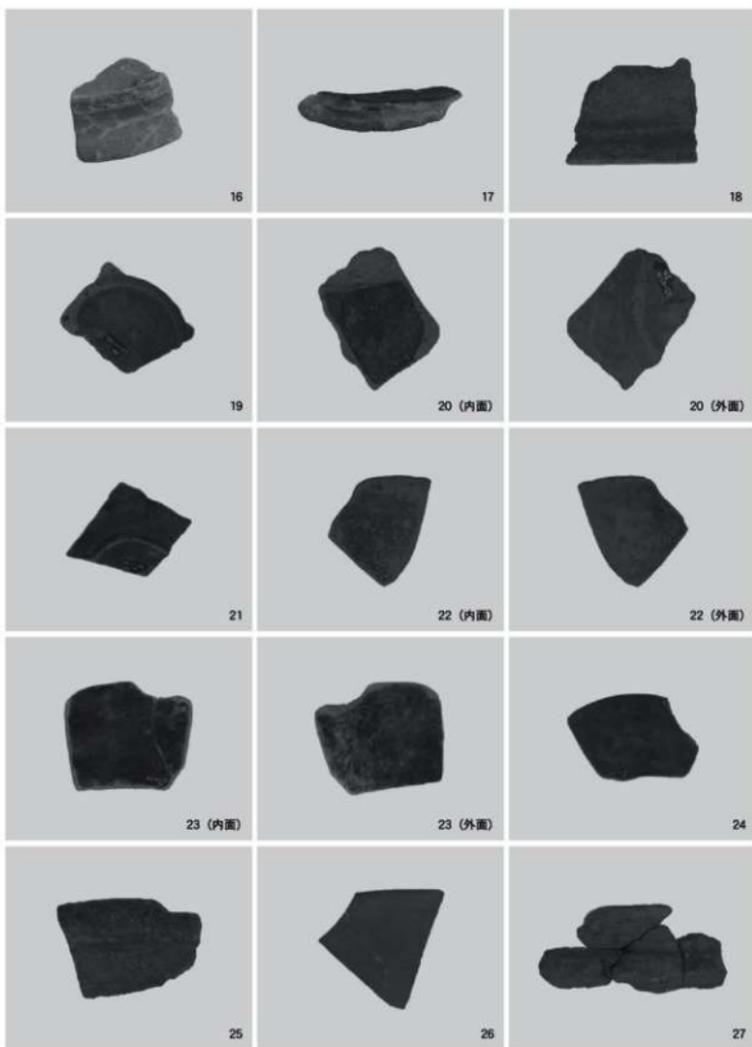
2 1溝サブトレンチ2土層断面
(西から)



3 1溝サブトレンチ3土層断面
(西から)







報告書抄録

| | | | | | | | | |
|-------------------------------------|--|-----------------|------------------|------------------|-----------------------------|---------------------------|---|----------------------|
| ふりがな | いわせせんづかこみんでらうちやく | | | | | | | |
| 番 名 | 岩橋千塚古墳群寺内地区 | | | | | | | |
| 副 名 | 和歌山平野農地防災事業新溝支線水路工事に伴う発掘調査報告書 | | | | | | | |
| 巻次 | ----- | | | | | | | |
| シリーズ名 | ----- | | | | | | | |
| シリーズ番号 | ----- | | | | | | | |
| 編著者名 | 瀬崎 純子 | | | | | | | |
| 編集機関 | 公益財団法人 和歌山県文化財センター | | | | | | | |
| 所在地 | 〒640-8301 和歌山市岩橋1263番地の1 TEL 073-472-3710 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 西暦2024年3月8日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード 市町村 遺跡番号 | | 北緯 ° ' " | 東経 ° ' " | 調査期間 | 調査面積 ㎡ | 調査原因 |
| いわせせんづかこみんでらうちやく 岩橋千塚古墳群 寺内地区 | いわせせんづかこみんでらうちやく 和歌山県 和歌山市森小手徳地内 | 302015 | 187 | 34°12' 22.71" | 135° 13' 39.66" | 20230710 ～ 20231108 | 428.2㎡ | 和歌山平野農地防災事業新溝支線水路工事等 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 | |
| 岩橋千塚古墳群寺内地区 | 古墳群 | 古墳時代～古代 | 土坑、小穴、自然地形の落込み、溝 | | 赤生土器、土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、国内産陶磁器 | | 古墳時代後期から古代にかけての土坑や小穴、溝のほか、中世以降に埋没した自然地形の落込みを検出した。 | |
| 要約 | <p>岩橋千塚古墳群寺内地区南西端に位置する調査区で、古墳時代後期から古代にかけての土坑や小穴、溝や古代から中世にかけて埋没したとみられる自然地形の落込みを確認した。また、中世以降に埋没したと考えられる東西方向の溝を確認したが、これは富井新溝の一部である可能性が考えられる。</p> <p>出土した遺物は調査地東方に位置する相方遺跡と共通するものがあり、調査地の周囲は相方遺跡の一部と評価することができる。また、出土した遺物には古墳時代後期とみられる須恵器の大甕の破片が複数点確認できたことから、調査地南側の丘上及びその斜面地に、古墳が所在していた可能性が考えられる。</p> | | | | | | | |

岩橋千塚古墳群寺内地区

—和歌山平野農地防災事業新溝支線水路工事等に伴う発掘調査報告書—

2024年3月8日

編集・発行：公益財団法人和歌山県文化財センター

〒640-8301 和歌山県和歌山市岩橋 1263 番地の1

印刷・製本：初田印刷株式会社

〒640-8137 和歌山市吹上5丁目4-40

